

【大学間協定留学】留学報告書

記入日: 2022年8月3日

所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学・経済学科
留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ノースイースタン大学 現地言語: Northeastern University
留学期間	2021年8月～2022年5月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	College of Social Sciences and Humanities <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2022年5月3日
明治大学卒業予定年	2023年3月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input checked="" type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期: 9月～12月中旬 2学期: 1月中旬～4月末 3学期: 4学期: (記入例/1学期: 4月上旬～7月下旬, 2学期: 9月中旬～2月上旬)
学生数	19,940
創立年	1898年

留学費用項目	現地通貨 ()	円	備考
授業料		円	
宿舍費	\$11,840	150万円	寮ではなくシェアハウス
食費	\$5,600	71万円	
図書費	\$20	2539円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	\$400	5万円	T-MOBILE
現地交通費	\$1000	12万円	(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費	\$1500	19万円	
医療費		円	保険で賄っていた
保険費		93000円	形態:
渡航旅費	\$6300	80万円	
ビザ申請費	\$160	21600円	
雑費		円	
その他		312861円	交際費
その他		円	
合計	約\$30,000	380万円	

渡航関連

渡航経路
往路 出発地:成田 目的地:ボストン 経由地: 復路 出発地:ボストン 目的地:成田 経由地:
渡航費用
①往復チケットを購入した場合 航空会社: _____ 料金: _____ ②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:JAL 料金:15万 復路 航空会社:JAL 料金:17万 ∴合計:32万
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: _____) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:JAL 国際線 HP) <input type="checkbox"/> その他(_____)

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: _____) <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2)部屋の形態
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 _____)
3)共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4)住居を探した方法:
留学先大学の住居斡旋サイト
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
元々は寮に入る願望がとて強く入れないことへのショックが大きかったです。社会人や大学院生と生活することは学校ではできないことであり自分よりも人生経験がある現地人と生活するのはとても頼もしく、非常に貴重な経験をすることができました。寮に入るのもシェアハウスもどちらも良い点悪い点あると思うのでご自身でしっかりと判断した上で決めることをお勧めします。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所:現地の Urgent Care)
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等: _____)
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?
インターネットによる事前情報の収集および現地では外務省のサイトへのメールの登録またボストン日本大使館のサイトでの情報収集
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)
特に無し
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)
家賃の支払いがあったため、現地について2日後に BOA の口座を開設した。その口座に親に定期的に振り込みをお願いしていました。
6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。
飲み慣れた常備薬
7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24単位	<input checked="" type="checkbox"/> 認定中単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか？ 5000 以下のもの学部制レベルに相当するもの	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Comparative Politics	比較政治学
科目設置学部・研究科	
履修期間	9/8~12/10
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義ベース、授業内ディスカッションあり(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 65 分が 3 回
担当教授	Professor Risa Kitagawa Amano
授業内容	世界各国の政治情勢を踏まえた上で多角的な考察を行っていた。政治学や国際関係学を応用したコースとなっている。
試験・課題など	試験は中間と期末の2回で基本的に授業でのテーマを扱っての記述形式のテストであった。課題に関しては授業ごとに 10~30 ページのリーディングがありこちらは読まなければ授業で置いていかれるためかなりの時間を割いて行っていた。
感想を自由記入	ゼミで扱っている範囲を履修できればと思いこの授業を取りました。政治学ということもあり多くのアジア人が履修している上、現地の学生もいたので非常に意見交換が活発で知見の広がる授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
International Relations	国際関係学
科目設置学部・研究科	
履修期間	9/8~12/10
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	冒頭に生徒によるプレゼンテーション、残りディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 100 分が 2 回
担当教授	Professor Max Abrahams
授業内容	毎週違った題材による国際関係学のテーマを扱っており毎授業誰かしら一人の生徒によってその週のテーマのプレゼンテーションを 10-15 分冒頭で行う。その都度先生からフィードバックが行われ、そこからディスカッションへと移行していく。
試験・課題など	試験は特に設けられておらずプレゼンテーションと期末論文による総合的な成績判断がされる。(10ページ)
感想を自由記入	非常にコンペティティブなクラスであると感じた、またそれと同時にアメリカらしい授業自分で理解し思考するというアメリカらしさを強く感じた授業でもあった。先生はとても気さくで話しやすいのでそこもおすすめできるポイントです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Film and Politics	映画の側面から見た政治
科目設置学部・研究科	
履修期間	9/8~12/10
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 65 分が 3 回
担当教授	William Kay
授業内容	アメリカの映画の歴史を振り返り政治的な繋がりを見出していく授業。映画のことはカメラワーク、撮影方法などといった Cinematography から他方に渡る解釈を行い学んでいった。
試験・課題など	中間試験、期末レポート(5ページ)
感想を自由記入	この先生は少し体弱くしばしば休講及びオンラインでの授業に変更になることがあった。またその連絡が遅く、遅い時で授業開始30分前という時もあったので困っていた。授業に関しては興味深いものであった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
East Asian Studies	東南アジア史
科目設置学部・研究科	
履修期間	1/18~4/29
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 65 分が 3 回
担当教授	Professor Philip Thai
授業内容	東南アジアの歴史主に中国、日本、韓国の3国に焦点を当て、紀元前から学んでいた。アジア特有の儒教的思想、文化もろもろ世界史の領域を超えて学べることができた。
試験・課題など	毎週木曜日の授業終わりにその週の学習の理解度確認テストが行われた。こちらはグループで考えても良いものであったが一人でも十分にこなせる難易度であった。 期末レポート(8~15ページ)
感想を自由記入	この授業を受けた目的としては歴史にもともと興味があったことまたアジアの歴史がどのように外国で教えられているかという部分に興味を持ったからだ。実際には日本で教えられていることと大きく変わりはなく事細かに事柄を扱っていた。日本人ということもあり日本がテーマの時には教授はもちろん他の学生からも詳しい解説を求められてしまうので適当なことは言えない故かなり日本史を復習した。この授業はアジア人やアジアに興味のある学生が多く履修しているためとても知り合いを増やすのにもってこいな授業と言える。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Europe: Empires, Revolutions, Wars, and Their Aftermath	ヨーロッパ史: 帝国、革命、戦争、その後
科目設置学部・研究科	
履修期間	1/18~4/29
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、プレゼンテーション、ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 65 分が 3 回
担当教授	Professor Matthew Bowser
授業内容	ヨーロッパ史を特に 18C 以降に特化して授業では扱っていた。最終課題として授業内で扱った歴史的出来事と現代での問題を結び付けての多角的な視点を持って取り組む論文課題があったので常に現代そして歴史にアンテナを張っていないと行けなかった。
試験・課題など	グループプレゼンテーション、最終論文
感想を自由記入	個人的に留学期間中であって一番好きだった授業です。講義、プレゼンテーション、ディスカッションのバランスがとても取れていて全く間伸びのないいつなんどきも退屈しない授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Japanese Film	日本の映画
科目設置学部・研究科	
履修期間	1/18~4/29
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、プレゼンテーション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に100分が2回
担当教授	Professor Jennifer Cullen
授業内容	日本の13本の有名な映画を取り上げてその時の時代背景、文化また日本人とは何か?人間性などについて考えた。取り上げる映画はジブリ作品のようなアニメーション作品やハラキリのような時代劇まで取り上げられた。日本の文化が海外でどのように考えられていて捉えられているのか、どこまでの領域で理解されているのかを学ぶ良い機会になった。
試験・課題など	一回のプレゼンテーションと期末レポート(5~8ページ)
感想を自由記入	この授業を受けて一番興味深かったのが、イケメン美人に対する価値観の違いである。美人に関する価値観にはそこまで差がないと感じたがイケメンに関しては違ったのだ。ここでは名前を差し控えるが、アメリカでイケメンと考えられているのは日本でいわゆるワイルド俳優と呼ばれて部類の人でした。爽やか系イケメンが人気があるわけではないことに驚いたことを今でも覚えてます。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記2以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
志望企業のHP CFN(ボストンキャリアフォーラム) SPI 参考書
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
就職先:三菱電気 内定先:三菱電機、富士フィルム
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
就職活動に正解はない。早く始めたから良いということでもなく、でももちろん遅く始めることへのメリットもない。自分の周りを見てよく思うのが『運とタイミング』という人がよく見受けられる。これはもちろん間違っておらず、運とタイミングというのも一つの要素であると言えるが、成功している人に共通して見られるのが各企業に100%の準備ができているかどうかである。むやみやたらにコマを増やして一つ一つの企業に100%の準備ができないくらいであれば減らせば良いし、こなせるのであれば数十社受けるべきだと思う。つまり何が言いたいかというと自分自身の就職活動であり周りや競うものではない周りがこれだけ受けているから自分もこれだけ受けようということはしないほうが良い。特に留学を考えてるみなさんはいい意味で日本の情報から遮断されるがゆえ焦りを感じる人は多い。だからしっかりと自分に合った就活の方法を模索して計画的にやることをお勧めします。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	iELTS 受験
	10月～12月	学校間応募、面接
留学開始年	1月～3月	現地校ノミネーション
	4月～7月	家の手配、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種
	8月～9月	出発、授業開始(Fall semester)
	10月～12月	12月期末試験、冬季休み
留学/帰国年	1月～3月	授業開始(Spring Semester)、3月1週間春休み
	4月～7月	5月帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

なぜノースイースタンを選択したか：もともと 2020 年度にジョージア大学に留学予定でしたがコロナウイルスの影響で中止せざるをえない状況となってしまいました。そんな中で目標を見失いかけていたためよりレベルの高い学校に行くために iELTS を受けようと思ったのがきっかけです。また次年度行くと就職活動も重なることを視野に入れていたのでボストンキャリアフォーラムに参加しやすいボストンの大学を選択したというのがノースイースタンを選択した経緯です。

留学生生活全般：自分が帰ってきてから身に染みて感じているのが周りの人に恵まれたなということです。当初は寮に入れないことをとても悔しく思っていたのですが、蓋を開けてみるとルームメイトはとても良い人たちでいまだに連絡をとって 11 月にはロスに集合してリユニオンをするという計画まであるほどです。そこで強く思ったのが環境や決まってしまったことは変更できないのでその置かれた場所でどれだけ楽しめるかというのが重要なのではないかと思います。

留学生活についてなので自分が身の危険を感じた3つのエピソードを紹介します。1.40度の熱が出たこと。これは溶連菌という病に現地でかかった時のエピソードである。ルームメイトの助けもあり無事病院に辿り着くことができたが緊急時に行く病院や薬局が一番近くでどこにあるのかなど事前に調べておくとな非常に便利である。2.大学の最寄り駅で銃撃事件が起こる。銃社会といえども、身近で銃を持っている人や使用している人がいなかったのが起きた時は衝撃的でした。犯人が逃走の間は自宅待機を命じられてリモートで受けておりました。3.電車で隣の人がサバイバルナイフを振り回し始めたエピソード。一瞬何が起きているのか全く理解ができていませんでしたが、分かった時にはもう電車から逃げていました。危険を自分で察知する能力や嗅ぎ分ける力も身につけることは重要であると感じました。

ここまであまり前向きになるようなことを書いていないですが自分自身留学がとても人生にとって貴重な経験でありもう一度機会があるのであれば是非ともしたいと思うしきっとこれから行くみなさんもこのような貴重な経験ができることを確信しております。人生は一度きりでありやりたいことをやったもの勝ちというのが自分のモットーでもあるのでこれからも多くの方が留学をしてかけがえのない思い出を作ることができることを心から願っております。